

当委員会では、大地震に備え、横浜市の防災拠点運営マニュアルに沿った各種運営方策の検討を行っています。今回は、以下のとおり、受け入れが可能なペットの種類を定めました。避難所にはスペースにも予算にも制限があるため、避難者用の備えが僅少なだけでなく、ペット専用の餌や資器材の用意はありません。受け入れるペットがきわめて限定的になりますが、ご理解くださるようお願いいたします。なお不明点は最寄りの自治会町内会にお願いします。

＝地震発生時の都筑小学校地域防災拠点におけるペット同行避難＝

1. 当防災拠点で受け入れるペットは犬と猫とします。ただし以下の条件を例外なく満たすこととします。

①犬、猫とも必ずケージに入れて飼育してください。

・犬…狂犬病の予防接種が済んでいることが必要です。鑑札・狂犬病予防注射済票および首輪を必ず着けてください。

・猫…首輪を必ず着けてください。 *犬、猫ともマイクロチップを埋め込むことをお勧めします

②ペットと同行避難してきた飼い主で「(仮称) 飼い主の会」を結成し、飼い主の皆さんで飼育場所の設置や運営等を含め拠点での飼育を行ってください。飼い主が給餌や清掃等を行い、ペットの鳴き声や臭い等の苦情に対処することとします。また拠点運営委員会と連携しその指示に従ってください。

③ペットの飼育場所は運動場北側の雲梯とフェンスの間とします。

④ブルーシート等を用い風雨を避けるものとします。 *都筑小学校に動物飼育舎はありません

⑤飼育者はケージに飼育者とペットと一緒に写っている写真やペット名・連絡先を貼り付けてください。

⑥飼育者は自分が連れてきたペット用のケージ・えさ・飲料水・ペットシート等の排せつ物処理の備品を用意してきてください。

2. 受け入れができないペットの例とその理由は次の通りです。

①ケージに入らない大型犬…横浜市のガイドラインではこのような犬種はリードで鉄棒等に繋いで飼育するとされています。ペット飼育場所として設置される運動場北側の雲梯とフェンスの間のスペースには限りがあり、リードでつなぐ必要がある大型犬を受け入れる余裕がありません。雲梯の西側にある鉄棒にはブルーシート等を張ることが困難でペットが雨ざらしになってしまいますので、ペット飼育場所としての環境としては不適切だと言わざるを得ません。

②鳥類…犬や猫と同じ場所で飼育することはお互いの相性が悪く困難です。また、ペットとして飼育される鳥類の多くは屋外での飼育が難しい(死んでしまう恐れがある)とされています。

③魚類…水槽を持って避難を行うのは危険です。また断水の可能性が高く水を入れ替えることが難しいと考えられます。また、停電の可能性が高くエアレーションやヒーターが使えまませんので魚が死んでしまう恐れがあります。

④ウサギ…飼い主がいないとストレスで死んでしまう恐れがあります。また気温の変化(特に暑さ)に耐えることが難しいです。また環境変化に弱いとされています。

⑤爬虫類(へび、とかげ、イグアナ、カメ他)…変温動物のため屋外での飼育に向かないとされています(暑い、寒い等の気温に耐えられず死んでしまう恐れがあります)。

⑥ハムスター…ウサギ同様環境の変化に弱いです。

3. 補助犬について(盲導犬、聴導犬、介助犬)

補助犬はペットではありませんので受け入れ可能とします。

横浜市のホームページに

ペット同行避難のための情報が載っています。

右のQRコードからアクセスしてください。



以上